

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第2年 第1回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2015(平成27)年5月24日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 26人

張 氷青、葉 元聡、任 家林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、孔
敏淑、崔 想、河 相宇、ヴィラマー ジェリー、タカハシ ライゼール
ラモス、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ フィ、なかだ
シリワン、ヒラチャン アスカ、ケゼンダア エドワード、セヌー ジョアキム、
鈴木 イエレナ、バルトコバ オクサナ、園田 泉 ベアトリス、かわもと
ファビオ 良則、シフケン ブランドン、オルソン チャールズ、デイトトマー
ダニエラ、童 埴恆

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、八木 担当課長、須藤 課長補佐、笛木 担当
係長、宮島 担当係長、丸橋 職員、西村 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 2人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、川崎市外国人代表者会議2015年度第1回第2日を
開催する。本日の欠席者はいません。事務局から本日の応援職員の紹介をお
願いする。」

(事務局須藤課長補佐が紹介。)

セヌー委員長「それでは、今日の日程と配布資料の確認をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いす
る。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは臨時会の企画案について審議する。
企画案の説明を事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明。)

セヌー委員長「次に、臨時会実行委員会の報告を副委員長からお願いする。」

オルソン副委員長「実行委員会では事務局からの提案を聞いて賛成しました。時間
をどうやってうまく使うかということだが、代表者の自己紹介は簡単なもの
にして、詳しいプロフィールは資料として配ればよい。オープン会議なので、
どのようなことを審議しているのかを紹介して、参加者の意見を聞きたい。
具体的には小さなグループに分かれて話し合うのがよい。」

セヌー委員長「何か意見のある人はどうぞ。」

河本委員「自己紹介は、みんなが前に立ってしゃべるのではなくて、
パワーポイントでみんなのプロフィールをつくって流す方がみんな同じ時間
になるのでよいのではないか。」

ケゼングア委員「プロフィールを資料にまとめるということだが、外国人のなか
には日本語が読めないという人も結構いる。資料は日本語だけのつもりなの
か。」

セヌー委員長「まずは日本語だが、別の言語でもよいと思う。」

事務局高橋専門調査員「事務局には多言語に翻訳する能力がないので、そこはぜひ
みなさん自身の能力を活かしてほしい。ご協力をお願いする。」

孔委員「プロフィールのことに時間をかけるよりも、もっと内容のことについて話
し合った方がよいと思う。」

セヌー委員長「たしかにそうだ。異論はあるか。(異議なし)では、
メインプログラムについて意見を聞きたい。ポイントは、私たちの審議して

いることを知ってほしいのか。それとも参加者の意見を聞くのかということだ。そのバランスをどうするのか、意見をどうぞ。」

ディットマー委員「たとえば、パネルディスカッションとか講演だったら、当然、一般の参加者の意見を聞くことはそんなにできない。一方、グループディスカッションとかだったらもう少しバランスがとれるかなと思う。」

シフケン委員「実行委員会でも言ったのだが、来ていただいた人たちにとって何かためになるということをやりたい。意見も聞きたい。だから、一番効率よくできる方法は、小さいグループにわかれて意見交換をすることだと思う。」

セヌー委員長「そろそろ時間になるので、決をとりたい。パネルディスカッションにするか、分科会と全体会にするか、講演にするか、グループディスカッションにするか。ここまでの意見ではグループディスカッションが有力だと思うが、別の意見はあるか。（なし）ではグループに分かれてディスカッションするというかたちに賛成する人は手を挙げてください。（賛成多数）それでは、グループに分かれてディスカッションに決定だ。」

金委員「賛成だが、テーマをどうするかというのが重要な気がする。」

セヌー委員長「テーマについては、今後また話し合って決める予定だ。今日はプログラムの形式を決めるところまでできればよい。続いて提言の評価について審議したい。まずは事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。）

セヌー委員長「今の説明について質問や意見はあるか。事前に勉強会もやったようだが。」

オルソン副委員長「4番目の案、この会議で過去の提言を振り返ってそれで不満と感じるのであれば、再提言するというのが一番効率的だと思う。」

劉委員「私は、1番と4番を組み合わせたのがよいのではないかと思っている。実行委員会をもう1つつくって、定期的に1回、1つの提言に対して検証をする。検証した後は、再提言はせずに、我々の検証結果を示して、もう少し改善してもらおうというようなかたちにしたらどうかと考えている。」

ディットマー委員「いろいろな意見を聞いていて思ったのだが、まず、外国人市民代表者の任期は2年だけなので、2年の間で問題を本当に片づけるというのはなかなか難しいと思う。もうひとつは、年次報告書を読んで思ったのだが、

結局、同じような問題が繰り返し提言されていて、解決するまでには何年もかかる。そういったこともあるので、重要だと思ふ問題はまた再提言する。過去に提言されていて解決に時間がかかりそうな問題はひとまず避けて、別の問題に取り組む方が現実的なのではないかと思ふ。」

河委員「外国人市民代表者会議は、代表者が集まって提言をするというのが1つの大きな目的になっていると思ふ。ただ、どうしても提案を出して、後はどのようなになったのかということをつかれないまま去っていくというふうになっているように感じる。それだともものすごく寂しいなと思ふし、外国人市民代表者会議のこれからのことを考えるならば、提言したことがどのように取りまとめられ、評価されているのかを過去のものも含めてしっかりとみていくことが大切だと思ふ。どうするのかという方法は難しいが、もう1つ専門の部会をつくるのはどうだろうか。それと、提言がすぐに実現するということが難しいと思ふので、いつまでに取り組むことができそうなのかということの評価の回答としてもらったらよいのではないか。」

セヌー委員長「そろそろ部会審議の時間になる。次回の会議でも引き続き提言の評価について審議する。それでは移動して部会審議をお願いする。」

【福祉教育部会】

園田部会長「それでは福祉教育部会をはじめたい。最初に資料4の裏を見てほしい。次回の予定で入っている参考人招致なのだが、今の段階で誰に来てもらうかということが決まっていない。これから振り返りをはじめて提言の候補が絞れてきたときに来てもらった方が効果的だと思ふのだが、みなさんはどうか。（異議なし）それでは、まずは前回会議のまとめを事務局からお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。）

（次回の会議で園田部会長、劉副部会長が欠席のため、代役について相談。）

園田部会長「それでは、次回の進行は仲田さんをお願いする。審議に入りたい。まずは、事務局から資料説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-1に基づき説明。）

園田部会長「今まで話し合ってきたことがまとめてあるので、これをもとにこれから提言の候補を絞っていききたい。今度、高校進学フォーラムがあるが、みなさん参加はどうか。」

(参加希望を確認)

園田部会長「それでは、せっかくの流れなので順番が変わるが⑦の高校進学から審議したい。外国の子どもたちといっても、小学校、中学校と日本でずっと育ていく子はそんな大きな問題じゃないと思う。やはり、中学校とか小学校6年生とか、途中で日本に来日した場合にすごく難しくなってくる。」

金委員「在県枠や特別な受験方法を利用して入学したとして、その時点ではほかの一般の受験生とは学力的な差がある状態だと思う。入学してからのサポートの体制というのはどうなっているのか。」

園田部会長「日本語指導等協力者のような共通のサポート制度があるわけではない。」

事務局高橋専門調査員「少し補足すると、多くの場合、在県枠がある学校ではサポート体制が比較的充実している。受け入れるからにはサポート体制を整えないといけないだろう。」

金委員「在県枠を増やしてくださいということは、事実上、受け入れる体制をもっと整備してくださいということにつながるということか。ただ、入れてくれるとなっても、その後はどうなるのかというのが心配だったが、納得した。」

崔委員「先月もらった資料では、在県枠のほかにも国際科というのもいくつかあった印象があるのだが。」

園田部会長「たしかに、国際科が受け皿になっている部分もある。」

金委員「提言に入れることではないと思うが、やはり一般的な経済水準より低ければ、公立に行かざるを得ない。お金があれば私立に入れられるけど、お金がなかったら公立校に行くしかない。ましてや高校を出てなかったら、それは将来の貧困に直結してしまうというイメージがある。私の経験としては、現実に周りを見ていてもそうだったし、多分、今も余り変わってない。高校を出てなかったら、おそらくアルバイトとしても雇ってもらえない。だから、この高校進学という問題は、実はとても大きいと思う。」

園田部会長「あと20分くらいしかないので、ほかのテーマに移りたい。まずは乳幼児の子育てについて何かあるか。」

崔委員「この前、川崎市のホームページを見ていたら、市長のコメントで待機児童がゼロになったと大きく取り上げられていた。本当にゼロになったのであれば、保育園に関する提言は必要ないのではないか。」

仲田委員「子育て広場のことだが、最近では参加人数も増えてきた。今、問題になって

いるのは運営のことだ。外国人のスタッフは私しかないし、職員の方は鍵を開けてくれるだけだ。」

園田部会長「運営の問題については、どんな支援が必要なのかということでは提言にできるかもしれない。ただ、外国人向けの子育て広場をつくってほしいということになると、ボランティアグループの問題なので提言にするのは違うかなと思う。」

劉委員「さっきの保育園の話に戻るが、入所基準で仕事の内定をもらっている人のランクが共働きの人よりも低いのは不公平だと思う。」

バルトコバ委員「この前、うちの子どもは家の近くの民間の一時保育にやっと入った。私は仕事をしていないので週に2回しか預けることができないが金額は安く手ごろだと思った。もし週に2回アルバイトをしていれば、3回まで預けることができるそう。本当はヘルパーを探していて役所に相談に行ったのだが、担当の職員はよく事情も知らないようでちゃんとした情報をもらえず不満に感じた。」

金委員「児童家庭課に電話して、こういうことで困っているんです、どうしたらいいですかと聞いて、次のパブリックコメントを募集するのかが聞けばいい。多分、同じように感じている人はたくさんいる。新しい制度が始まったばかりで自治体としてもこれでいいのかなと思う。だから、そんなに遠くないうちに、また何か別のかたちでパブリックコメントの募集があるかもしれない。あとは、保育園の活動を通して意見を出すという方法もあると思う。多分、その方が有効なんじゃないかなと思う。」

ケゼンダ委員「保育園問題は我々外国人だけに直面している問題じゃなくて、日本人も影響を受けている問題なので、ここでいろいろと議論を交わすのはいいと思う。ただ、提言にするというのは、この会議の役割としてちょっと違うかなと思う。」

園田部会長「そろそろ時間だ。続きは来月になる。できれば、6月で振り返りを終わりにしたいのでみなさん協力をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「次回、何か資料は必要か。」

金委員「県立高校の在県枠についての県の会議の提言は、どのようなものだったのか。参考になるかもしれないので資料としてほしい。」

事務局高橋専門調査員「わかりました。ほかにあれば事務局まで連絡を。」

園田部会長「それでは福祉教育部会を終わりにする。」

【社会生活部会】

任部会長「それでは、これから社会生活部会を始める。今日、予定しているテーマは、行政と市民のコミュニケーション環境づくりと短期滞在者への支援についてだが、その前に前回残っていた宿題を少しやる。事務局から資料の説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料5-1-1に基づき説明。)

任部会長「『ひとり親家庭のみなさんへ』を読んで驚いたが、国民年金保険料免除だったり、JRの定期券の割引があったりといろいろな支援も受けられるようだ。」

張委員「これは日本人も外国人も同じように制度を利用できるのか。」

任部会長「そうだ。日本語で出されている情報が多いが、外国人でも利用できるものも多いので、困っている人がいれば情報を伝えてあげてほしい。」

次に、フィールドワークに参加した孔さんとライゼールさんから何かコメントを。」

孔委員「川崎にもふれあい館があるが、もっとこういう場所があればよいと思った。」

あと、つづきMYプラザでは、運営は行政ではなくNPOが行っていて、行政と市民や支援活動をしている団体などをつなぐことをしているそうだ。川崎市でもこういったコーディネートをしてくれるところがあるとよいと思った。」

タカハシ委員「つづきMYプラザはどんなところかという、駅から近い、明るい、相談しやすい場所だと思った。外国人のためだけではなくて、青少年の人たちも気軽に行けるところだ。あと、受付の入り口の近くにいろんなチラシがいろんな言語で置いてあり、例えば、DVの問題とかがあればこっそり取れるぐらいの感じだ。相談するのが恥ずかしい、という人たちがこっそり取れるのはすごくいいと思った。あと、青少年たちの居場所があることも本当にいいと思った。駅から近いのでアクセスがよく、人が集まりやすい。仕事帰りに行けたり、仕事に行く前に相談できたりするのは助かる。川崎にもあった方がいいなと思っているが、どこにつくるのかということが問題になると思う。」

任部会長「資料を読んで私もすごく共感した。もしかすると、これが提言につながるかもしれない。ぜひ今後全員で検討したい。では、今日のテーマの行政と市民のコミュニケーションづくりに移りたい。まずは、提案者のライゼールさんから説明を。」

タカハシ委員「資料5-2-1だが、これは簡単にわかりやすく説明するためにつく

ったプロトタイプウェブサイトのスクリーンショットだ。何を共有したいか
という、今までの経験と会議で出した話を考えたときにコミュニケーション
の改善が必要かなと思っている。何回も情報伝達に関する事が出てきている
し、PRが必要という話もよく出てくる。どんなコミュニケーションの改善
が必要かという、まずは①市から市民へのコミュニケーション、次に②市民
から市へのコミュニケーション、そして③市民と市民の間の
コミュニケーションだ。①と②は情報伝達につながるのかなと思うが、ここで
提案したかったのは、まずは①だ。今、市のウェブサイトがあるが、もし
ユーザーがログインできるのであれば、ログインしている人の情報をシステム
が把握することができる。たとえば、ユーザーが住んでいる場所がわかるので、
どんな情報を見せるのかをフィルタリングできる。今は情報があふれているの
で、全部の情報を見せるよりも、そのユーザーに重要な情報だけをあげるのが
重要だと思う。その方が迷わないのでよいと思う。②の市民から市への
コミュニケーションだが、今は、市民は質問があるときは電話やメールでも聞
けると思うが、その質問をインターネット上で公開して聞いて、返事もそのま
ま公開できたら資料化する時間はなくなるし、他の人たちも参考にすることが
できる。ただ、②はフィルタリングをする必要がある。悪意のある質問の場合
もあるので、そのまま公開できるわけではないだろう。それと、③市民と市民
の間のコミュニケーションの改善についてだが、これは、今まで出てきた
ネットワークのことかなと思っている。この画像を見ると、ハローキティが
質問をしているが、これは本当は去年、私が悩んでいたことだ。妊娠してい
たが、どこで出産したらよいのか悩んでいた。もちろん、いろいろな専門の
言葉が出てくるので、もしかしたら出産するときに日本語ができなくなったら、
私はそのまま死ぬかもしれないと思っていた。ほかに川崎に住んでいる
外国人の知り合いも少ないので、誰に相談すればよいかわからなかった。区
の窓口で相談しても、私がほしい情報はあまり得られないと思っていたので、
気軽に聞ける人が必要だなと思っていた。次のページには、市のやっているい
ろいろなインターネットの活用が載っていてすごくありがたい。SNSの活用
もあるし、あと、ポータルサイトもある。『まいぷれ』は、まさにこの
コミュニケーションのプラットフォームではないかと思う。技術的には私の
提案はこの『まいぷれ』で実現できると思うので、新しいサイトをつくるよ
りも『まいぷれ』を使って、私たち代表者がこれを使って、いろいろな

外国人の人たちを誘って、ここでネットワークをつくりましょうということが可能ではないかと思う。」

任部会長「ありがとうございます。イメージでつくってくれたプロトタイプのホームページもとてもわかりやすかった。事務局が準備してくれた資料についても事務局からも説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料5-2-1、5-2-2に基づき説明。)

任部会長「質問や意見はあるか。」

タカハシ委員「『まいぷれ』の多言語サポートは運営会社によるだろう。もし多言語サポートをするのであればお金と時間がかかる。けれど、まずは私たち自身が代表者会議のグループをつくっていろいろな情報を公開・発信すれば、そこに参加してきた人たちがそれぞれの言語でのグループをつくるかもしれない。そうすれば多言語対応をしなくても役立つ情報交換ができる。」

葉委員「私は来日する前に小春というコミュニティのメンバーだったのだが、最初は人数もそれほど多くなくて純粋に人助けという雰囲気があり来日当初はとても役に立ったのだが、今は登録している人が何十万人に増えていて最初のころの助け合いの感じが薄くなってしまい、いろいろなトラブルも起きているようだ。そう考えると、市からおすすめるのは難しいかもしれない。」

王委員「私もこういった情報を川崎市の公式的なものとして出してよいかどうか疑問がある。情報があればありがたいと思う一方で、問題が起きたときに誰が責任をとるのかということが気になる。」

任部会長「事務局はどう思うか。」

事務局丸橋職員「川崎市として出す情報については、正確であることが条件だと思う。」

ディットマー委員「先ほどの話では代表者会議としてコミュニティをつくり、私たちが情報を発信すればということだったと思うが、私はそれも難しいと思う。代表者会議の任期は2年なので誰が運営するのか。また私たちなら本当に正確な情報を発信できるのか、ということも考えなければいけない。」

孔委員「韓国はIT社会で10年くらい前からこういったシステムがすでにあるのだが、そこで問題になっているのは運営責任だ。間違った情報に騙されて被害を受けたという人もたくさんいて、韓国では多くの場合、運営会社が責任をとっている。なので、それを市が行うのは難しいと思う。」

任部会長「みなさんは結構長く日本にいらっしゃる方が多いが、この中で、5年以下の短い来日の方はいるか。」

童委員「当初、留学生として日本に来たときは、学校の中の同じ台湾人の先輩たちにいろいろわからないところがあったら教えてもらった。とくにそういうウェブのコミュニティとかに入ったことはないが、そこまで困ったこともなくて、やはり知り合いがいることが結構重要だと思う。ネットよりも、近くの人に話を聞いたりする方がよいと思う。」

任部会長「残り時間の関係もあるので、次のテーマに移りたい。短期滞在者への支援について、まずは提案者のダニエラさんから説明をお願いする。」

ディットマー委員「まず、私が短期滞在者ということで考えていたのは、留学生ですとか、例えば、仕事で2年とか3年とか5年まで日本に滞在して、でも、最初からこの時期にまた帰国しますということがはっきり決まっている人のことだ。なので、日本で就職して10年以上いるというような我々みたいな人ではなくて、日本に3年ぐらいの間だけいて、また帰ってしまうという人を指している。そこで、私が一番困ったというか、あったら便利かなと思ったのは家具のことだ。家具とかを買って、1年後、2年後にまた売ってしまうとか捨ててしまうとなると、いろんな無駄がある。そこで、例えば家具がリサイクルできるようなシステムがあれば、日本人にも外国人にも役に立つのではないかと思った。そういったシステムがあると日本に対してよいイメージができるし、それを自分の国や海外にいったとき話したりすればそれは川崎市のイメージアップや国際化につながるし、また川崎に行きたいなという思いにもつながる。」

任部会長「私の知り合いにも短期滞在中で日本に来て、帰国してからもまた来たいと言っている人もいます。それでは、事務局から調べていただいたことについて資料の説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料5-3に基づき説明。)

任部会長「それでは、何か質問や意見はあるか。」

孔委員「こちらの家具のリサイクル施設は、売ることもできるのか。」

事務局丸橋職員「基本的に粗大ごみとして出されたものを無償で提供している。」

張委員「これは誰でも利用できるのか。短期滞在者だけなのか。」

事務局丸橋職員「川崎市に住んでいる18歳以上の方なら誰でも申し込めるそうだ。」

ディットマー委員「私が考えていたのは単純に、例えば、自分の物を買ったけど、捨てるのはもったいない。まだ使えるけど、自分は帰ってしまうから、この家具はどうしようかなと。寄附したいとか、そういう人もいるかもしれないし、逆に、日本に来るから高いものはあまり買いたくないという人もいるかもしれない。リサイクルショップみたいな情報が外国人にも伝わるとよいと思う。たとえば、ウェルカムセットに入れるとか。私は留学生のときに寮に住んでいたときがあって、地域の日本人の人たちが要らない服や家具を持ってきてくれてバザーのようなものをしてくれたのがよかった。」

任部会長「ダニエラさんに聞きたいのだが、これを提言にしようとする、住居関係になるのか。それとも、粗大ごみ処理関係になるのか。提言をする際には担当部署がどこになるのかということも、想定しておきたい。」

ディットマー委員「どちらかという住居関係だとは思いますが、ただ、今まで審議してきたテーマはほかにもあるので、提言にする必要性とか優先度は低いかなと思っっている。」

任部会長「それでは、時間になったので社会生活部会を終わりにする。次回から振り返りに入りたい。」

【全体会】

セヌー委員長「それでは、全体会を再開する。まずは部会報告を福祉教育部会から願います。」

園田部会長「まず、予定では6月に参考人を呼ぶことになっていたが、テーマが具体的に決まっていなかったので、テーマが決まってから呼ぼうということになった。福祉教育部会では、とくに新しい資料はなく、これまでの審議テーマの振り返りに入ったところだ。順番としては、7番になるのだが高校進学についてから振り返りを始めた。在県卒のことや私立高校には行けないような経済状況の子どものことを考える必要があるのではないかといった意見が出た。そのあと、乳幼児、子育てといったテーマの振り返りをした。保育園の問題については、これからも待機児童をゼロにするための取り組みを続けていくしかないだろう。入所基準については、やはりパブリックコメントを実施したということなので、この会議で提言するのは違うのではないかと思う。金さんのお話だと意見などがあれば直接担当課に相談する方がよいかもしれないとのことだった。次回は引き続き振り返りを進める予定だ。」

セヌ一委員長「福祉教育部会から補足はあるか。（なし）では、社会生活部会から質問や意見はあるか。（なし）それでは、社会生活部会の報告をお願いする。」

任部会長「本日は大きく3つのテーマについて話をした。まず、行政と市民のコミュニケーションだが、ここではフィールドワークへ行った人の感想も話してもらった。『中間支援組織という機能について』『駅から近くて、誰でも気軽に行ける』『いろいろな情報が手に入る』『外国人が少なくてもそういった施設がある』それと、一番気になったのは『居場所と感じられるような場所』といった感想だった。話を聞いたただだが、ぜひ川崎にもそのような場所ができればみんな喜ぶのではないかと思った。

行政と市民のコミュニケーションについては、現状でも市が情報を発信するポータルサイトのようなものがあるそうだ。ただし、市民から市への発信ルートに関しては改善の余地がありそうだ。市民同士のコミュニケーションというのも難しい問題だが、外国人同士のコミュニティやネットワークづくりという意見もでた。1つの提案としては、外国人向けに役立つ情報のリンク集があるとよいと思う。次に、短期滞在者への支援だ。これは1年間から3年程度の短い期間だけ日本に住む人への支援だ。賃貸に住むときに、家具だったり家電製品だったりを新規で買って、2年後、3年後にごみにするのがすごくもったいないという意見だ。困っている人はたくさんいる。資料5-3をみてほしいが、川崎市には橋リサイクルコミュニティセンターとリサイクルビレッジ堤根というところがある。申し込みをすると抽選で状態のよい家具や家電製品をもらうことができるそうだ。

あとは補足の情報になるが、資料5-1-1と5-1-2にも重要な情報がたくさん載っているので、ぜひみなさんも周りの人に教えたりして、情報発信をしてほしい。市がやっている施策や制度はたくさんあるので、ぜひそれを多くの人が利用できるようなになればよい。」

セヌ一委員長「同じ社会生活部会から補足はあるか。」

葉委員「リサイクルでもらえるのは、さっき任さんは家電製品とおっしゃったが家具のみで、家電は含まれない。」

セヌ一委員長「福祉教育部会から質問はあるか。（なし）それでは、続いて実行委員会報告をニューズレターからお願いする。」

ディットマー委員「まず、今年度の委員長を決めて、私がやらせていただくことに

なった。その後、ニューズレター No. 54 について確認した。配布時期は8月下旬から9月中旬頃の予定だ。原稿の締め切りは6月14日で、決まっていなかった記事の担当は孔さんと私になった。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)次は、市民祭り実行委員会から報告をお願いする。」

ヒラチャン委員「今日は、まず実行委員長を決めて、今年度は私がさせていただくことになった。直近になるが、7月5日にここでインターナショナル・フェスティバルがあるので、そのことについて話をした。今、この場で確認したいのだが、市民祭り実行委員会以外の方で、7月5日のインターナショナル・フェスティバルに参加できるという方は挙手をしていただきたい。午前と午後に分けて確認したいので、まずは午前に参加できる方は挙手をお願いする。(参加者挙手)では、午後に参加できる方は挙手をお願いする。(参加者挙手)参加者は結構多そう。企画については3つやろうということになった。1つ目は去年もやったじゃんけん大会。2つ目はクイズ。3つ目は子どもに国旗を描いてもらう。その3つの企画をうまく組み合わせて進めていこうという話になった。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。」

オルソン副委員長「クイズはとても難しかった。クイズをつくった人が来たときに聞いたのだが、子ども用のものがあるそう。誰かが協力して見直した方がよいと思う。」

ヒラチャン委員「子ども向けのものがあるのであれば利用したいが、あるのか。」

セヌー委員長「事務局に確認したい。子ども向けのクイズはあるのか。」

事務局高橋専門調査員「だいぶ前の代表者をつくったものだと思うが、残念ながら事務局では保管していない。」

ヒラチャン委員「では、来月の実行委員会の中で検討する。」

セヌー委員長「以上で今日の議事はすべて終わった。事務局から事務連絡をお願いする。」

事務局丸橋職員「宮前市民館からのお知らせで、ご近所国際交流というチラシを配布した。全8回にわたって、外国人と日本人の交流を目的とした講座を開催するそう。外国人のボランティアを募集しているということなので、興味・関心のある方はぜひ参加していただければと思う。」

セヌー委員長「次の会議は6月21日の日曜日、午後2時からここ国際交流

センターで開催する。これで2015年度第1回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。